

熊谷組グループの社会貢献・市民交流活動の事例紹介

株式会社熊谷組 安全品質環境本部 執行役員本部長 星 国人



熊谷組グループは、2016年4月に新たなグループビジョンを発表しました。新ビジョンでは、「自らの技術力や人間力を高め、顧客や社会に私たち独自の価値をお届けし、時代や世代を超えて支え続けていくこと」を目指す姿としています。私たちの事業活動は、地域との共生、環境保全、災害復旧等の社会的課題の解決を支援するとともに、市民ボランティア活動にも積極的に参加しています。

その活動事例をいくつかご紹介いたします。

被災地での復旧復興支援

被災した地域の復旧復興活動も、社会における建設業の大きな役割です。

2016年4月に熊本県と大分県で多くの被害が出た熊本地震。熊谷組と協力会社は一致団結して阿蘇大橋地区の土砂崩壊現場やその周辺の緊急対策工事を行っています。頭部崩壊地からの落石や土砂崩壊による二次災害を防ぐため、長年にわたり研究・開発してきた「無人化施工技術」を導入。最新の遠隔操作技術で建設機械を動かし土砂を除去。ICTを活用したネットワーク対応型無人化施工技術で、復旧支援となる工事を安全・安心に進めています。



地域社会との環境学習

【実習型環境学習】

次世代を担う子供たちを「自ら考え、自ら行動できる」人材として育成することを支援する目的に、NPO法人、グループ会社と連携し、2002年から毎年、独自の実習型学習の環境教育プログラム「クマさんの環境教室」を実施しています。プログラムは、小学生には「エコ・マイバッグづくり」、「実験を通じた環境学習」（水の融解による海面上昇、保水性舗装は涼しくなるか？ホタルビオトープや屋上緑化の見学など）、中学・高校生には「低炭素・自然共生・資源循環社会を実現する街のデザイナー授業」があります。2016年度末まで延べ約1,600名が受講しています。

学校側からは、生徒たちが「学習で体験したことをいつまでも覚えている。自主的に考え、応用するようになった。」と高い評価をいただいています。

（平成24年 経済産業省 第2回キャリア教育アワード優秀賞受賞「クマさんの環境教育」）



社員手作りの環境学習教材
「クマさんのエコブック」



小学2年生が“もったいない”をテーマに“エコ・マイバッグづくり”



中学2年生の“街のデザイナー授業”の様子

【ホタル観賞会】

毎年7月初旬、本社ロビーでホタル観賞会を開催しています。隣接する小学校・幼稚園の生徒・園児や保護者、近隣住民の方々に参加いただいております、初夏の恒例行事にもなっています。

はじめに当社社員によるホタルの生態や特性、必要な環境や成長過程などについて説明を行い、そのあとロビーの一角に設置した暗室に移動し、ホタルを観賞します。暗室の中では、「光った!」「こっちも光った! きれい」などと幻想的なホタルの光を楽しんでいただいております。



ホタルの生態や特性などを説明します



エサになるカワニナを触ってみます



暗室の中にホタルがいます

市民交流活動、環境保全活動への参加

【広島市グリーンパートナー事業への参加】

広島市のグリーンパートナー事業に12年前から参加しています。グリーンパートナー事業は、平和大通りの花壇の維持管理をするもので、当社は、NHK 広島放送局前の花壇を担当しています。

2017年度は、5月に「ニチニチソウ」など約260株の植え替えを行いました。平和記念公園に向かう外国人観光客が行き交う通りの美化のために、今後も花壇の管理、清掃を継続的に行っていきます。



心を込めて色鮮やかなニチニチソウを植え替えました

【竹林間伐ボランティアへの参加】

竹林間伐のボランティアを実施しています。「公益財団法人トトロのふるさと基金」が活動している狭山丘陵（『となりのトトロ』の舞台のモデルと言われています）の「トトロの森」でも竹林間伐を行っています。グループ会社やご家族も参加し、竹の伐倒、枝払い、適度な長さへの切り分けなどを行います。



竹の間伐は、竹の根元にノコギリで倒したい方向に受け口をつくり、受け口の反対側に切れ込みを入れ、受け口方向に倒します（左）。間伐後には枝払いをして、適度な長さへ切り分けます。